

# 粗飼料による積極的な飼い直しは腹づくりを促進する

福島県農業総合センター畜産研究所  
平成19年度農業総合センター試験成績概要

## 1 部門名

畜産 - 肉用牛 - 畜産栄養  
分類コード 07-02-39000000

## 2 担当者

富永 哲

## 3 要旨

黒毛和種において(腹囲 - 胸囲)を腹づくりの指標として、10ヶ月齢で導入後チモシー乾草のみ1ヶ月間給与することは、濃厚飼料を給与する慣行法に比べ肥育前期の増体量を小さくさせるが、腹づくりを促進させる効果、並びに順調な肥育による遺伝的能力の発揮が期待できる。また、導入時の(腹囲 - 胸囲)の傾向は枝肉重量の傾向と類似する。

- (1) 素牛導入後、チモシー乾草のみ1ヶ月間給与した場合DGはほぼ0である。
- (2) 導入時と1ヶ月後の比較では、胸囲と腹囲の差は大きくなる。しかし、慣行区は胸囲が増加し腹囲が変わらないため腹囲と胸囲の差が縮まるが、試験区の(腹囲 - 胸囲)が小さい区は胸囲に変化が無く腹囲のみが増加するため、腹囲と胸囲の差が大きくなつた。
- (3) 発育(体高)に差は見られなかった。日常の観察より全頭目立った食滞は見られず、体重は出荷月齢に全頭が標準発育を上回った。(腹囲 - 胸囲) > 20cmの区は期間DGが他に比べ大きい傾向にあった。
- (4) 枝肉成績においてすべての項目で統計的な差はなかったが、導入時(腹囲 - 胸囲)が大きかった区ほど5等級率が高かった(80%)。枝肉重量では、導入時の(腹囲 - 胸囲)が大きいほど大きい傾向にあった。
- (5) 枝肉成績のBMS.No.において、試験区14頭の平均は8.0となった。肥育前期の腹づくりにより、食滞の少ない順調な肥育の結果、遺伝的能力が発揮されたと考える。

## 4 その他の資料等

なし